



愛隣幼稚園・・・・・・・・・・・・・・・・

# 園だより

・・・・・・・・・・・・・・・・ 10.5月号

## 今は その「時」

今年の春は天候不順、こんなに雨ばかりの4月は記憶にありません。その上真冬のような寒さ・・・やっぱり気持ちも沈みがちです。大人がそう思っているのですから、子どもたちだって言葉にはしないけれど、きっと同じような気持ちかもしれません。初めて愛隣での生活を始めた子どもたちはなおさらです。大好きなお母さんと離れて過ごすのですから、お天気ぐらい味方してくれてもいいのに、と思うスタートとなりました。

それでも本格的な登園が始まって2週間、あちこちから聞こえてきていた泣き声も、だんだん聞こえなくなってきました。おうちの人と手をつないで幼稚園に来る顔には、ほんの少しですが笑顔も見えるようになりました。別れる時にちょっぴり出る涙も、楽しいことが見つかるであっという間に乾いています。心配しているおうちの人に見せてあげたいくらいです。その一方で不安な表情で涙をこらえている姿にも出会います。頑張っているのです。泣きたい気持ちをグッとこらえて頑張っています。“新しい世界に一步踏み出した”その「時」が今であり、今しかないその「時」であることを教えてくれているような姿です。

『何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある』

(旧約聖書 コヘレトの言葉3章1節)

子どもたちとの生活の中で、私はしばしばこの聖書の言葉を思い起こします。生まれたばかりの時には、ほぼ3時間おきの授乳のため細切れになる睡眠・・・朝まで寝てくれるのはいつのこと

いつまでたってもつかまり立ちと、はいはいばかり・・・いつになったら立って歩き始めるの  
トイレトレーニングの時期になれば・・・おむつがとれるのはいつ

次から次へといろいろな「時」がやってきます。自然な時間の経過の中でやってくる「時」があります。待っているといつの間にか時が満ちてやってくる「時」もあります。今がその「時」なのだろうかと心を研ぎ澄ませて、見極める「時」があります。そして今がその「時」と覚悟を決めて迎える「時」というものもあります。この春、幼稚園での生活をスタートさせた子どもたちとおうちの人たちには、まさに覚悟を決めて迎えた「時」だったのではないのでしょうか。子どもたちには親から離れてひとりで歩きだす大切な時です。親である私たちも心配だったり、可愛かったりでまだしばらく離したくない「子どもの手を離す時」です。しかし同時に「子どもと手をつないで歩くことが出来るあと何年間」も 今 なのです。このことは、子どものひとり立ちを支えるのは、つないだ手が伝える揺るがない信頼や安心であることにも気づかせてくれます。

私たちは、子どもたちと(或いは子どもたちが)過ごす様々な「時」を大切にしたいと思います。そして 今 しか出来ないことも大切にしていきたいと思います。泥んこになって遊べるのは今だけかもしれません。1日中、自分のしたいことをして夢中になれるのも今しかないでしょう。お互い照れずに「大好き！」と言ってぎゅっと抱きしめることが出来るのもあと何年でしょうか?どの事にも時があり、それは定められた時であるように思います。

爽やかな季節です。手をつないで歩きましょう。あと何年出来るかな・・・そう思うと今は大切「時」です。